

六条大麦「シュンライ」の播種適期と窒素施肥量

1. 試験のねらい

六条大麦のシュンライは、多収で倒伏に強くかつ白度が高く精麦加工適性に優れ、生産者・実需者双方の評価が高く、生産の拡大が見込まれる。本県でも2000ha程度まで作付の増加が見込まれており、安定栽培技術確立のため、播種期・施肥量などについて検討した。

2. 試験方法

農業試験場本場水田（厚層多腐植質多湿黒ボク土・転換初年目）において、平成7・8年播種では播種期2水準、施肥量3水準、平成9年播種では播種期3水準、施肥量2水準に加え、最も遅い播種期では播種量を2水準設け、生育収量を調査した。（試験区の構成は以下の通り。）

	播種期	窒素施肥量	播種量
平成7年播種	10月25日・11月1日	0.6・0.9・1.2kg/a	0.7kg/a
平成8年播種	10月25日・11月3日	0.6・0.9・1.2kg/a	0.7kg/a
平成9年播種	10月27日・11月4日	0.6・0.9kg/a	0.7・0.9kg/a

・11月11日

（播種量0.9kg/aは11月11日播種のみ）

3. 試験結果及び考察

- (1) シュンライは多くのビール麦と同じく播性Iであるが、茎立期はあまぎ二条より遅く、早播（10月25日播種）しても茎立が早まらないため、幼穂凍死の発生は少なかった（表-1）。出穂・成熟期はあまぎ二条とほぼ同程度から3日遅く、さらに窒素施肥量が増加するに従って、成熟が1～3日遅くなり、1.2kg/aでは倒伏が見られた。11月11日播種では、分けつから発生した穂の成熟が遅く、5日程度成熟が遅れた（表-2）。
- (2) 子実重は窒素施肥量に従って増加した。平成9年播種では不稔が4割程度発生したため、大きく減収した。収量構成要素からは、播種期が遅くなると一穂粒数が減少し、千粒重が増加した。また、窒素施肥量が多くなると、穂数が増加し千粒重が低下した。播種量を増やすと、穂数・収量が増加した（表-2）。
- (3) 外観品質については、11月11日播種で白度が低下した。また、窒素施肥量が多くなると硬質麦が増え、精麦時間が長くなり、白度が低下した（表-3）。

4. 成果の要約

シュンライの播種適期は10月第6半旬から11月第1半旬であるが、暖冬年では11月第2半旬まで播種が可能である。施肥量は窒素成分で、0.6～0.9kg/a程度が収量や品質の面で適当である。播種が遅れた場合には、播種量を増加させる必要がある。

（担当者：作物部 山口昌宏・村上明子・相吉沢秀夫・倉井耕一*）*現育種部

表一 1 生育調査 (茎立期) (平成7年)

品種名	播種期	茎立期	幼穂凍死
		月.日	率%
シュンライ	10月25日	3.26	3.0
	11月3日	4.1	0.0
あまぎ二条	10月25日	3.15	37.3
	11月3日	3.29	12.8

表一 2 収量調査 (平成7~9年)

品種名	播種期	施肥量	出穂期	成熟期	子実重	千粒重	穂数	一穂粒数	倒伏
		kg/a	月.日	月.日	kg/a		/m ²		程度
平成7・8年									
シュンライ	10月25日	0.6	4.22	6.6	60.4	33.3	463	39.2	0.0
		0.9	4.23	6.5	62.1	33.3	540	39.5	0.0
		1.2	4.23	6.6	73.6	32.7	555	38.5	0.5
あまぎ二条		0.6	4.20	6.5	48.1	37.6	845	15.9	0.2
シュンライ	11月 第1半旬	0.6	4.26	6.8	59.9	35.6	467	38.4	0.0
		0.9	4.24	6.7	65.4	35.0	593	37.2	0.2
		1.2	4.26	6.9	72.5	33.9	584	37.6	2.9
あまぎ二条		0.6	4.25	6.7	54.8	38.2	764	17.8	1.4
平成9年									
シュンライ	10月27日	0.6	4.20	5.24	30.7	29.5	497	28.2	0.0
		0.9	4.20	5.24	34.4	29.1	420	26.8	0.0
シュンライ	11月4日	0.6	4.20	5.26	31.6	33.1	467	26.3	0.0
		0.9	4.20	5.26	35.3	34.7	530	24.6	0.0
シュンライ	11月11日	0.6	4.22	6.1	32.4	35.2	452	23.7	0.0
		0.9	4.22	6.1	35.4	34.4	497	23.6	0.0
シュンライ	11月11日	0.6	4.22	6.1	31.8	34.6	523	22.3	0.0
		(播種量0.9kg/a)	0.9	4.22	6.1	38.1	34.2	558	23.9

表一 3 品質調査

播種期	施肥量	精麦時間	白度	外観品質
	kg/a	分'秒"		
10月	0.6	10' 30"	41.0	上下
第6半旬	0.9	10' 44"	41.2	上下
	1.2		39.7	上下
11月	0.6	9' 00"	42.5	上中
第1半旬	0.9	9' 22"	40.5	上中
	1.2		40.2	上下
11月	0.6	8' 05"	36.8	上中
第2半旬	0.9	8' 34"	37.1	上下

注) 精麦時間は180gの玄麦を55%まで搗精するのに要した時間 (平成9年)

白度は55%搗精時の値 (平成7~9年)

外観品質は食糧事務所調査 (平成7・8年)